

## 第6回世田谷リング会議 議事録

- [日時] 令和元年9月23日(月・祝) 13:00～16:00
- [場所] 世田谷区役所第三庁舎3階ブライトホール
- [出席者] 【学識経験者】  
卯月 盛夫、深尾 精一
- 【周辺地域団体代表】  
安藤 敏次、飯田 洋一、浜村 公明
- 【障害者団体代表】  
菊野 弘次郎、村井 やよい
- 【区民】  
池田 典正、内海 利彦、菅野 光一、齋藤 充、長岡 玲子、  
平塚 久美子、古山 邦男、堀江 礼子、水口 敏子、湯本 悠
- 【世田谷区】  
松村 浩之  
(以上、18名。50音順。)
- [会議公開可否] 公開
- [傍聴者] 23名
- [次第] 1 開会  
2 議事
- 1 実施設計の検討状況について
- 2 本日の意見交換
- ① 広場のスロープについて、  
取りやめを決定したことを世田谷区より報告
- ② 広場の階段について、設計者の考え
- ③ 空間特質の継承
- ・ 広場を含む外構の設え
  - ・ 区民会館ホワイエ、区民交流スペース
  - ・ 区民会館ホール
  - ・ 外壁デザインと景観形成
- [運営主体] 株式会社 佐藤総合計画(設計者)
- [共同事務局] 世田谷区庁舎整備担当部庁舎整備担当課

(乾谷)

それでは、定刻となりましたので第6回世田谷リング会議を開始します。よろしくお願いいたします。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、どうもありがとうございます。本日は16時を終了予定時刻としていますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。司会進行役は佐藤総合計画設計担当をしています乾谷が務めます。よろしくお願いいたします。

まず、本日の資料のご確認ですが、次第以外に前川國男の設計に関する考察というA4レポートと、A3のこちらの資料をお配りしています。委員の皆さまには事前に配布していますが、本日のこちらのA3の資料が一部差し替えとなっていますので、机の上に置いてあるものを正しいものとしてご覧ください。

続きまして、会議の進行に当たり何点かご注意いただきたい点があります。今回初めて傍聴される方もいらっしゃいますので、改めてご確認ください。会議の資料は公開とし、傍聴の方も含め皆さまに同様の資料を配布します。資料は佐藤総合計画が区の要件を基にたたき台として作成したものであり、加工や引用して使うことはできませんので、取り扱いにはご注意くださいようご協力よろしくお願いいたします。

また、傍聴についてですが傍聴人の方の発言、拍手、私語は慎んでいただきますようご協力お願いします。ご意見は配布した所定の様式にご記入いただき、会議終了後に回収します。後日でも区役所第1庁舎1階に設置していますInfo-Baにてご提出いただけます。ご意見は取りまとめた後に、委員の皆さまに提供します。

また、報道関係者の取材も制限していませんので、ご了承をお願いします。最後ですが、議事録作成のため、録音や写真撮影をご了承いただきますようお願い申し上げます。

続きまして、本計画の総括を務めています鳴海から開会のごあいさつをします。よろしくお願いいたします。

(鳴海)

本日はお忙しい中、お集まりいただき本当にありがとうございます。今回は第6回目のリング会議となります。最終回となります。本日も皆さまの活発なご意見を期待していますので、よろしくお願いいたします。

(乾谷)

それでは、早速会を進めていきたいと思います。ここからは司会進行役をファシリテーターの奥村さん、宮地さん、坂本さんと交代し、進めたいと思います。よろしくお願いいたします。

(奥村)

皆さま、こんにちは。お忙しい連休の最終日ですがお集まりいただきまして、今日は皆さまからたくさんのご意見を頂戴できることを楽しみにしています。今日のプログラムについて、簡単に概略をご案内します。

まず、最初に前回の宿題となっていましたスロープの取り扱いなどについて、区から実施設計の段階での報告をします。その後、佐藤総合計画よりリングテラスと階段のしつらえについてご報告します。それが終わりましたら、先日開催されました世田谷区本庁舎等整備に

関する区内の専門家との意見交換の報告を差し上げ、その後、佐藤総合計画の鳴海さんより空間特質の継承に関する総合的な考え方などについて、皆さまにご案内を差し上げる予定です。その後、皆さまから自由にご意見をいただけるようなグループ討議を予定していますので、よろしくをお願いします。

それでは、早速なのですが、これまでの経緯について、世田谷区庁舎整備担当課の佐藤課長よりご案内をお願いします。

(佐藤)

皆さま、こんにちは。庁舎整備担当課長の佐藤です。本日もどうぞよろしくお願いします。それでは、実施設計の今の検討状況も含めてご説明します。こちらは着工までのスケジュールです。来年度の令和2年度末、2021年2月ごろの工事の着工を目指して、この3月にまとめました基本設計を基にこの4月より実施設計の作業を行っています。各種条例に基づく手続きに向けまして設計をまとめていく必要もあることから、リング会議は今回が最終回となります。なお、区民参加という点では東棟1階の区民交流スペースの運用の仕方などについて今後区民の方々や団体の皆さまのご意見をお聞きしながら検討を進めていくことを考えていますので、その段階になりましたら皆さまにもご案内をしてみたいと考えています。

次にこの間実施設計を進める中で、基本設計の内容から変更となった部分について、主な項目を3点ご説明します。まず、①番の基本設計からの主な変更内容です。まず、1つ目ですが、コスト削減の観点から輸送計画を再検証しまして、西棟1期のエレベーター2台を1台に変更、また前回のリング会議でもお話しましたが、1階の階高を5.3メートルから4.8メートルに下げたことに伴う高さの変更、西棟1期の施工範囲の拡大です。これは工事期間中ローリングを円滑に進めることも念頭に置いて、旧都立玉川高校の校舎を仮校舎として都から借り受けて、庁内の一部部署を移転することを検討しており、現在東京都と調整中です。そのために1期工事で解体できる庁舎が増える予定です。

そして、補助154号線からのアプローチ階段にスロープを併設することについてです。こちらは、前回までのリング会議でいただいたご意見を基に変更しています。通路としてのスロープということだけでなく、どなたでも楽しめる散策コースとしての付加価値があるということで判断しました。一番下、リングテラスと広場を結ぶスロープは後ほどご説明しますが、設置しないこととし、大階段は機能的な階段に変更します。

続きまして、②番ですが工期の変更についてご説明します。整備工事に要する工期についてです。この4月以降、区でも市場調査等を行いまして、今後の施行者選定の入札が不調となるリスクを避けるためにはまず1つ目、東京オリンピック以降も引き続き鋼材等の資材調達に長期間を要すること、また2つ目は建設業における働き方改革への取り組み状況を見据えた工期として算定し直す必要があると判断しまして、基本設計では64カ月とお示していたところ、75カ月に変更することにしました。

③番ですが、整備にかかる概算経費です。これは基本設計の終了時から発注、来年の2020年5月ごろになりますが、そこまでの物価上昇分約3%を反映しまして約430億としていた

ところ約 447 億円としています。以上が主な変更点です。

続いて、2 番目、前回の宿題になっていた部分です。リングテラスと広場を結ぶ大階段へのスロープの設置についてです。これまでの検討を踏まえた区の方針として、スロープは設置しないこととします。大階段は機能的な階段に変更します、ということを決めました。そういったことに至った経緯をご説明します。まず、スロープを設置しない理由ですがスロープが長く、テラスに上がる経路として選択されることが実際には少ないのではないかということですが、

また、震災時などには建物自体が免震構造ですので建物側にとどまります。地球側は揺れるので、外に避難するよりも建物側にとどまり、建物内の非常用エレベーターで地上に降りることが安全なため、実際にもそのように誘導します。

2 番目、テラスの幅が狭くなってしまい、区民交流機能からの広場の見通しが悪くなります。一番下ですが、バリアフリーですがユニバーサルではありません。これは UD 審議会委員からのご意見で、こちらでも前回ご紹介しましたが、そもそもスロープを付けて解決という問題ではないという指摘でした。区としてもある意味厳しいご指摘だったと考えています。

続きまして、では階段を残す理由はということで、階段はどうしたらいいのだろうということですが、こちらを残すことにした理由は閉庁時も開放する 2 階のリングテラスに面した区民交流室がありますが、こちらへのエレベーター以外のアプローチ動線のために階段は残す必要があると考えています。

(委員 C)

すみません。障害者の方はどう上るのですか。

(佐藤)

ちょっと説明を続けさせていただければと思います。

(奥村)

質問は後でお受けします。きちんと時間をつくれます。

(佐藤)

そして、そもそもリングテラスとは何だったのかということも前回のリング会議でご意見をいただきました。広場空間を確保しつつ大階段もあってそこにスロープも、と重ねるうちにリングテラスが単なる通路になってきていませんか、そもそも何でしたっけと。区民と区の職員が食事でもしながら、のんびり過ごせるところかと思っていましたが、という問題提起をいただきました。

そして、リングテラスの機能ということで改めて整理しますと、まず東西の棟をつなげて機能連携を図ります。2 番目に通路機能だけでなく、2 階レベルの広場機能を併せ持ちます。区民交流スペースをリングテラスに向けて設置し、閉庁時も使えるようにします。また、テラス沿いに配置される 2 階のテラスへの動線になります。リングテラスはこのような役割を持っていると考えています。

そこで、先ほど申し上げた2つの方針にこちらを追記したいと思います。東棟部分のリングテラスの幅に余裕を持たせ、通路機能のみでなく憩いの空間とします。以上が前回までの議論を踏まえて、区で検討しましたリングテラスと広場を結ぶ階段やスロープ設置に関する方針です。

この後、佐藤総合計画から区の方針も踏まえて、設計者として現在検討されている案のご報告をいただきます。区においても、今後UD検討会等で改めて専門家のご意見をお聞きする予定でして、修正の可能性もあります。こちらをもって最終形ではないことをご承知おきください。よろしくお願いいたします。私からの説明については以上です。

(奥村)

ありがとうございます。それでは、佐藤総合計画の鳴海さんより設計案の考え方についてご案内いただきます。

(委員 F)

すみません。その前に質問をさせていただきます。

リングテラスから下に降りるスロープについて、最初はスロープありきではなかったのですよ。リングテラスから地震等があったときに、車椅子の方や子どもさんを連れた人が逃げられないから、要するに避難のための通路としてスタートしたはずなのですよ。それが今になって面積がどうのこうのということになしにするのは、非常に私は心外です。スタートが違うのですから。

私は佐藤総合計画さんに簡単な絵を描きましたが、西棟の一番端の壁のところに避難だけだっただけでいいでしょうと言ったのです。あそこではなく、大階段の横に付けるという話にどんどんいって、今になって急にそれをやめます、スロープもなしという考え方は、あまりにも短気が過ぎるのではないですか。それをご説明ください。

(奥村)

分かりました。それでは、佐藤課長、スロープを取りやめた理由をもう少し丁寧にご案内ください。

(佐藤)

ありがとうございます。去年、基本設計のときのリング会議でスロープの設置については、皆さまでご議論が重ねられてきたと思っています。その中で確かに最初のきっかけは2階レベルのリングテラスから地上部分に逃げられる、逃げられないという避難のことが発端でした。ところが、その後佐藤総合さんからのご説明もありましたが、こちらの建物には非常用エレベーター、地震時は一旦止まってすぐ非常用発電機で復活するエレベーターが2基ありまして、地面側にあるスロープで避難するよりも、免震構造で安全な建物の中にとどまって非常用エレベーターで地上に降りられるということで、車椅子の方等の避難については非常用エレベーターがあるということで、むしろそのほうが安全だということできていると思います。

議論の後半ではそのスロープに関する論点は、避難ではなく、むしろユニバーサルデザイ

ンとしてどうかというところに移ってきたと認識しています。スロープが日常使われるのかといいますと、歩道橋ほどの高さになる段差の 80 メートル近い延長を移動される方が、日常それを選択する方がいるかという、実際はどうかという話が前回皆さま方のグループワークでの意見として上がっていたと思います。そういったことを総合的に考え、区でも検討しまして、先ほど申し上げたような方針を決めた次第です。

(奥村)

ありがとうございます。

(委員 C)

テラスについて発言をしていいですか。

(奥村)

テラスそのものについてですか。こういう方針になったことについてですね。

(委員 C)

今日で 6 回目のリング会議なのですが、大切なテーマよりもこのリングテラスの話を 6 回もしているのですよ。まず、それほど重要なことなのかなと私は思います。いろいろな意見書や説明会の後とか、Info-場、傍聴の方や我々の意見などには、リングテラスは本当に要らないのではないかという意見が多いのです。そういう意見はどのように受け取っていらっしやって、突破するのか、それをお聞きしたいです。

あとは、見上げたときの空の空間がリングテラスによって削られます。それから、鳴海さんが非常にこれを造りたがっていらっしやるのを私は理由があると思っているのですが。先ほどおっしゃった執務室の中に、区民交流室がいくつかありますよね。そこにどうしてもテラスを通して行かせたいわけです。けれども、この執務室の中に区民交流室がいくつかありますから、それは来訪者としては邪魔なのですよ。

上田にすごく広い美術館があるのですが、そこも交流のための部屋があります。それは執務室の中ではなく逆に外に出ているのです。そして、上田の美術館はものすごく広大な広場の中ですからそれが出ていても気にならないのですが、こういう執務室の中にガラスの部屋だか何か知りませんが、非常に邪魔だと思うのです。ですから、こういう交流室は、私は必要ないと思います。そうするとテラスも必要ないと思います。

(鳴海)

ここからの設計説明の中で、現状の階段のこと・スロープのこと・リングテラスのこと、私の説明の中で現状を踏まえた上で説明していきたいと思います。

それでは、設計の考え方について説明します。このリング階段のしつらえを今日はお話しするのですが、私も 3 回目のリング会議時からスロープを付けた提案をし、そしてスロープと階段一体型のできるだけこの場所（設計する場所）になじむような案を出し、強くお勧めをし、この提案はいいものになるとずっと伝えてまいりました。その中で、最初はいろいろな場所にスロープを付けたりしたのですが、高さの問題もありまして、平面的にスロープの長さが 70~80 メーター近くになってしまう。場所によっては 100 メーター近くになってしま

う。検討を様々行いましたが、それであればやはりリングと 1~2 階を近づけようということで、最大限、階段の踊り場を使って、スロープをうまく造ることを提案しました。

その後、UD 委員会の方やいろいろなリング会議委員の方たちと議論しましたが、賛否両論でした。中には、「すごくいいではないか」という意見もありましたが、「これは危険だ」と、「あそこでやはり何かベビーカーや子どもが遊んで落ちたらどうするのだ」という意見もたくさんいただきました。その賛否両論に対して区と検討した結果、今日の絵になっています。ということで、その内容をお話したいと思います。

広場とリングテラスを結ぶ階段に関して、基本的にはリングテラスには、階段は必要だということで、大階段でつなぐことを考えており、広場と 2 階のテラスは一体的であると考えました。地盤のところは広場機能、2 階の部分をテラス機能と言っているのですが、これは考え方によっては 2 階のテラスも広場機能ですし、1 階の地盤の広場もテラス機能です。つまり、広場とテラスは 1~2 階、考え方としては一体です。

一体ですから、一体的な中にその上下を結ぶものも、もちろん 1 つの一体的なものの考え方です。階段も含めて 1 つのパッケージです。ですから、先ほど区から言われた「機能的な階段を付ける」という言葉を私は、「この階段は広場機能もありますし、テラス機能もあり、機能的である」というように考えています。そして、広場とリングテラス、階段はパッケージ、1 つの一体的なデザインであると考えて計画案を出しています。

広場機能ですから、赤で記載されている部分のようにステージもありますし、その周りにもベンチや座るところがありますし、もちろん木の周りにもベンチはあります。ここで非常に大事なのは広場面積についてです。プロポーザルの時点では、既存の広場は（道路部分を除き）約 1,600 平米ありました。基本設計のときも道路部分や階段部分を除いて、天空のデッキの下の部分の内側で、1,628 平米ほどありました。今回の実施設計の新しい案もこれはたまたまですが 1,628 平米ですので、既存の部分よりも、道路部分と新しい階段部分も除いて面積は増えていることをまずお伝えしておきたいと思います。

この階段の踊り場の部分にステージ機能も付けています。高さも 50 センチ程度の高さに登れます。そして、この踊り場に至るまでには 20 分の 1 勾配程度のスロープを付けているので、ここには誰もが登れてステージが使えるといったものを考えています。細かい断面ですが、ベンチ機能があったり、50 センチ程度の踊り場のステージがあったりします。また、図面に脱輪防止と書いてあるように、そこからは当然、車椅子の方が落ちることがないように考えております。区民交流スペースの見通しについても、ステージが非常に低いですから基本設計のときよりかなり改善されて良くなっていると思います。

リングテラスのしつらえについてですが、世田谷産業フェスタや外でイベントのときも、たくさんの方がこのステージを中心にイベントが行えることをシミュレーションして計画をしています。こちらのパースは広場から見た景観です。少し暗いですが、どこにどのようなものが見えるのかというシミュレーションです。

リングの存在意味というのは、2 階部分に区民交流スペースを設けていますので、区民交

流スペースに対するアプローチの意味ももちろんそれはあります。このリングの意味は話す  
とすごく長くなるのですが、いろいろな機能があります。7万平米近い庁舎です。窓口や区  
民交流、これが数千平米ぐらいの庁舎や1万平米ぐらいであれば、大体1階で全部の用事が  
済んでしまいます。ですが、これだけの大きな庁舎になりますと、1~2階はどうしても1番  
区民の方が1階だけでは済みません。2階も相当行き来があります。

そして、1階レベルでも2階レベルでもこの東棟と西棟を行ったり来たりします。これも  
すごく頻繁です。何千人もいるものすごい職員数ですから、その人々が庁舎の機能で行った  
り来たりします。区民の方も行ったり来たりします。それに対して、しっかり2階の部分で  
回遊性のあるデッキを付けなければいけないという考えがあります。

また、このデッキは今日のイベントを見てお分かりのように、皆基本的にはピロティやひ  
さしの下だけに基本的には出店などを設けています。今日はこんなに暑いので、雨がいつで  
も降ってもいいように基本的にはひさしの下でやって、ちょっとしたゲームやショーなどの  
イベントは日が当たるところでやっていますが、基本的には日本の風土ですからいつ雨が降  
ってもできるように、すごくピロティやひさしの下を日本の人はすごく大事にするのです。

ですから、天空もすごく大事ですので、天空が当たる部分も今よりも面積を広くしていま  
す。このリングデッキの下はある意味ひさしになりますので、少し風は入ってきますが雨を  
遮ることはできます。その日本の風土の場合のひさしやピロティの大事さは、今の既存より  
も何倍もの規模の庁舎を造るという点で、私は大事にしたいと思います。リングテラスは、  
この考えを受け入れる場所でもありますし、1階・2階のレベルは非常に目が届くところ  
ですので、非常にヒューマンに人の息遣いや多少人の表情を感じながら、1~2階だけはやはり  
そういうつながりを強く持ちたいということです。

もちろん移動のときには1階のひさしの下を通れば雨に濡れないですし、今2階の部分で  
も一部国土舘の北側のところはリングテラスの上に屋根を付けていますので、台風のような  
風はしのげませんが、できるだけ雨をしのいで移動ができます。この1~2階の大事さはこ  
の規模ならではのやはり考え方ですので、ぜひリングテラスは必要だと思っています。

(奥村)

どうもありがとうございます。

(鳴海)

また、防災上も今日学識Yさんが見えていませんが、最近の防災庁舎という考え方も組み  
込んでおります(もちろん前川先生の時代にはありませんでしたが)。このテラスはとても防  
災上有効なテラスになります。非常時には、1階が支援物資や重量車両、場合によっては自  
衛隊の車両も来るかもしれません。それで埋め尽くされたときでも、2階のテラスは場合  
によっては支援物資、その他の人が少しいられるところです。そのテラスも大変重要になりま  
す。テラス下のひさしも防災や救援物資が来たときに、やはり大雨やすごいときにはそのひ  
さしの機能も防災上とても有効だということも、重ねてお伝えしておきたいと思います。

(奥村)



ありがとうございます。2～3 ご質問をお受けしますが、その後今日のメインテーマであります全体に関する考え方や外観のデザイン、広場や区民会館のデザインなどに対するご提案をこの後にいただきますので、その後皆さまグループ単位で本当にたくさんご意見を頂戴したいとプログラムを組んでいます。ただ、今の段階でこれを聞いておかないとグループ議論にも入れないというご質問がもしおありでしたらお受けします。

(委員 K)

まず、このリングテラスを造るのにおいくらかかるのですか。前回スロープが 6,000 万円かかると言われましたよね。このリング自体はいくらかかるのでしょうか。まさか数十億単位とかではないと思いますが、億単位には当然なりますよね。

(鳴海)

階段であれば装置ですので装置部分は切り離して考えられますが、リングだけを切り離して積算とか、リングテラス自体を積算するのはまたすごく時間がかかります。もちろんテラスがなくてもひさしは付けたいと思っていますので。

(委員 K)

始まる前に私は区の方にリングテラスがいくらかかるのかを聞いて、今回佐藤総合さんからご説明があると聞かされてきたのです。

(鳴海)

その寸法や数字はパッとお答えするようなことではなくて、リングテラスがなければ当然建物ですから寄り付くひさしなども出ますので、一概にそこだけスパッと切って積算はできません。いろいろな機能を兼ねているので、一体的にしか積算できません。

(委員 K)

水掛け論になるので止めましょう。

(鳴海)

はい、即答はできません。

(委員 K)

リングテラスに上がる階段についてはおいくらぐらいですか。それも分かりませんか。

(鳴海)

数字はちょっと微妙ですが、スロープにかかる金額で 6,000 万円という数字が出ていたのであればその半分以下ぐらいでできると思います。

(委員 K)

では、リングテラスに上がる 4.8 メートルの大階段は 3,000 万円程度で、中古のマンション 1 軒分ぐらいですか。

(鳴海)

それも設計上の積算と 7 万平米の工事を全体で受けたときのコストと、積み上げてそこだけ切り離して 1 個だけと全く違いますので、ちょっとなかなか即答できません。

(委員 K)

ただ、それだけの金額が浮けば、西棟の1基にしてしまったエレベーターも2基に戻せるとかそういう考え方もできるので。

(鳴海)

当然その経済的コストだけの比較でやりくりをするという考えに基づけば、そういう意見もあると思います。

(委員 K)

また後でスロープやリングについては意見しますので、よろしくお願いします。

(奥村)

どうもありがとうございます。手を挙げてくださったのはお2人だったのでよろしいですか。すみません。

(委員 B)

この大階段を一番最初に提案されたときに1つの目玉、売りだと伺っていました。それでしたら、ここのスロープは必要なのではないかと以前から申し上げていたのですが、いろいろUD審議会などの意見も伺うと、後付けのスロープはかなり無理があると伺いましたので、それは仕方がないかなと思います。先ほど閉庁後に2階に上がるための階段とおっしゃっていましたが、車椅子の場合は中でエレベーターが閉庁後に動くのでしょうか。

(鳴海)

オープンなところは動かせるようにします。

(委員 B)

閉庁後もですか。

(鳴海)

閉庁後に関しては、これから管理区分などを全部決めますが、今のところは誰かが行けて、誰かが行くことができないことはないようにしたいと思います。

(委員 B)

分かりました。それで、これは1つの目玉ということで設計されているのですが、これを見た限りでは最初からUDのことを考えていなかったのではないかと思うのですが、それはとても残念だと思います。また別のステージのことなどでも、例えば年に何回ぐらい使う可能性があるのかお伺いしたいのですが。

(佐藤)

今ステージを使ってイベントをやっているというところでいけば、産業フェスタが年に一度あります。それから、例えば今日のような子ども祭りがあったときに、ステージがあれば何かそこであるかもしれません。

(委員 B)

年に数回？

(鳴海)

何回使うということよりも、もちろんイベントのときは使いますし、ここは公園のような

開かれた場所ですので、日常的にもある意味勝手に使っていいという言い方はあれかもしれませんが、そこでパフォーマンスをやったり、何かやることも日常的にあれば今後どんどん使われる、そういうふうにしていかなければと思っています。

(委員 B)

分かりました。ステージは仮設でも今までずっとやってきたことですから、対応できると思うのです。やはりこの階段を見る限り、ユニバーサルデザインのことが欠けているなど感じられるのです。ですから、少し無謀な意見かもしれませんが、いつそのことこの大階段なしでいけないかなと思うところです。以上です。

(委員 F)

いいですか。

(奥村)

では、手短に。

(委員 F)

私はリングについて、元々6社のいわゆる設計コンペ時に佐藤総合さんが出された案で、各フロアを2階の部分のスルッとつなげるとか、それから先ほど少し説明があったように、防災上で下がいっぱいときには上が通路になるよということで、リングテラスありきで私の気持ちとしてはスタートしているのです。これが要らないとかやめようという考え方は、もしそれをやるのであれば元々の6社の設計会社さんのコンペからひっくり返すこととなりますので、それだけは私は考えていません。

それから、1つ確認したいのですが以前の3回目ぐらいのリング会議時に、非常用エレベーターの復旧には30分ぐらいかかるというお話がありました。その後、前々回か何か、1分とか数分ですぐ動くという話がありましたが、本当はどちらなのでしょう。地震があった、動いた、皆他の人は逃げます。30分も1時間もかかって初めてエレベーターが動くのか、非常用エレベーターはそれこそ1分、5分の間ですぐ動けるようになるのか、そのことだけはきちんと残しておいていただきたいと思います。以上です。

(委員 C)

私はこのグループワーク形式の意見交換をやめてほしいです。私はワークショップは本当に意味がないと思うから、ここで意見を言わせてください。また、ワークショップと入ってきたときに、私は何度もやめろと言いましたよね。

それで、今一生懸命鳴海さんをご説明なさいましたが、納得できません。こじつけて話していらっしゃる感じがしますし、見たときにもう階段は邪魔なのです。今日もあれだけの人が来ていて、私はこれに階段やら何やらができたらすごく邪魔だなと思いました。ですから、階段は要りません。何かイベントがあるときは池袋の有名な公園なども全部仮設ステージでやっていますから、それで十分だと思いますし、この敷地に対して非常にいいとおっしゃいますが、逆にこういうものを造るにはこの広場の敷地が狭すぎるのですよ。コンペでリングテラスありきで選ばれたからリングテラスをやめるのはやめましょうとおっしゃいましたが、

私はやめても全然構わないと思います。

(奥村)

どうもありがとうございます。このグループごとの話し合いについてはいろいろな話し合いの形式がありますが、今のところ多分 20 分ぐらい皆さまにお話をいただいている中で 4 人しかご発言をお聞きしていません。そうしますと、今日のためにいろいろとお考えいただいた皆さまのご意見をできるだけたくさんお聞きするという意味で、グループでご意見を頂戴する形式が今のところ最適ではないかと思い、この形でやらせていただいています。もちろん皆さまの耳に届くように、このように不可欠な質問については皆さまの前でしていただくようにご案内を差し上げていますので、できればいろいろな考えの方がいらっしゃると思いますが、今日はご不満の方もいらっしゃると思いますが、今日はこの形式で進めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、エレベーターについて、お話をすぐお返事いただけるようでしたら、お願いしたいと思います。

(持田)

万が一停電になったら、非常用エレベーターが稼働するのにどのぐらい時間がかかるかというお話かと思いますが、30 分というのは少し大袈裟でして、逆に 1 分というのも少し極端な話だったかと思いますが。停電になって発電機が稼働する時間ですので、5 分以内ぐらいには稼働ができることかと思いますが。

(奥村)

ありがとうございます。それでは、次へ進ませていただきます。

(委員 C)

もうこれでリングテラスに関しては終わってしまうわけですか。

(奥村)

各グループでのご議論です。今は質問をお受けした段階ですので、ご提案をいただいた後に各グループではまた個別にご意見をお受けしますので、その時間は確保します。よろしくお願いいたします。

それでは、次に進みます。次は今日のメインテーマというか、皆さまにご案内を差し上げておりました空間特質の継承に関する全体を通じた考え方のご説明、それから広場、区民会館のデザイン、外観のデザインについて、佐藤総合計画の鳴海さんからのご説明をいただくのですが、その前に先日区内の建築の専門家の方たちと意見交換会を開催しましたので、その様子を主催した区からご案内いただければと思います。よろしくお願いいたします。

(佐藤)

前回のリング会議で、ユニバーサル審議会での意見をご紹介したのと同じような感じですが、今回は区内の一般社団法人東京都建築士事務所協会世田谷支部、東京建築士会世田谷支部、公益社団法人日本建築家協会関東甲信越支部世田谷地域会にご所属の皆さまに呼び掛けました。急な呼び掛けにも関わらず 14 名ほどお集まりいただきまして、本日のリング会議

でご意見をご紹介したいと思います。今回のテーマが現庁舎の空間特質の継承というテーマだったこともあり、呼び掛けが急ではあったのですがお願いしてお集まりいただいたのが9月20日でした。その時の様子をご紹介します。皆さまの意見交換の参考というか、こんな意見もあるのだなとご参考にしていただければと思います。

〔以下、スライドを投影しながらの説明〕

まず、空間特質の継承ということにつきましては、『部分的なところではなく前川國男は敷地内だけでなく、周りの低層住宅地で区役所のボリュームがなじむか、周辺も含めた空間特質を考えた上で検討していました。敷地内だけの話ではありません。今日と同じ資料をお見せしているのですが、配布資料では周辺住宅の記載がないので、周辺も含めて検討しないといけないのではないかと、中庭の断面図が示されていません』とのご意見でした。

続きですが、『緑化にしても周辺との関係性を考えなければいけないのではないのでしょうか。タイルや中庭だけ継承するのは、またその空間特質の話とは異なるものではないのでしょうか。少し浅いのではないかという厳しいご意見もありました。空間特質の継承は、色やタイルだけでは議論にはならないのではないか』というご意見です。

また一方で、『空間特質の継承は建築家や建築専門の方にとっては、大きな関心事で重要なのですが、一般の区民の方々にとってどこまで価値のあることなのでしょう』というご意見もありました。『専門家だけの意見で空間特質の継承が具現化したときに、市民との乖離(かいり)ができてしまわないか確認すべき。どうやってうまく説明していくのでしょうか』ということです。

そして、『ホワイエと広場の関係が前川建築の継承と言えないのではないか』という意見もありました。『現状の建物、区民会館は広場を中心として建物がつながっていて、区民会館は広場に対して入り口があるわけですが、今回の新しい設計ではホワイエが広場ではないところに開いている』というご指摘です。

また、もう一つ、『継承も大事なのですが、一方で新しい価値の創造も必要なのではないか』という意見もあります。『新しい庁舎ではリングテラスが特徴的でこれは前川の思想と絡めてどういうことなのか、その辺の説明もいただきたい』というお話です。

それから、『広場の空間特質の継承はピロティ部分が2階だからこそできている、今回の計画は現状で2階の部分が5階になっているので東側の空が見えなくなってしまい、広場があったからといってだいぶ違う空間になるのでは』というご意見です。

それから、『エスプラナードというのは前川建築の特徴として言われている、目的もなくブラブラと散策する憩いの広場、憩いの散歩道というところで行くと、今の噴水などもいい空間なのですが、新しい設計ではそこにバス停が配置されており、そのことについてどうなのか』ということです。

もう一つが、『区民会館のホールと東棟、高層棟の離れの距離がだいぶ短くなって、区民ホールが肩身の狭い印象があります。離れがもう少し大きくなるといいのでは』ということです。

その他さまざまなご指摘・ご意見をいただいております。空間特質の継承以外の部分でのご指摘をいただいております。まず、『9月20日の専門家との意見交換会の位置付けにつきまして、基本設計の説明がなく、その計画を十分に理解していない状況では意見交換会の内容も薄くなってしまわないかと。われわれ建築家は、計画を理解した上で責任を持って意見したいのですが』ということです。

もう一つ、『この会議の目的がなかなか明確に分かりません。会議の議事録はどのように使用されるのでしょうか。生の意見をリング会議に出すのでしょうか』というご質問等がありました。『佐藤総合より提案のあったリング会議とワークショップをするという提案については、ワークショップの開催がなく現在に至っています。今までこのような事前会議がない中、このタイミングで実施したのはなぜでしょうか』ということです。

それから、『受託者である佐藤総合さんが開催しているのですか』ということです。建築専門家との意見交換会は区が開催しました。『受託者である佐藤総合で開催しているのか、区長が区民等に委託して区民等が区長に答申するのが通常であるため、受託者が開催することに問題はないのでしょうか』とのご質問もありました。

また、『基本設計の説明がないため、計画を理解していない状況では薄い意見交換になります。手順があるので、1回でなく数回開催が必要ではないでしょうか。われわれ建築家は計画を理解した上で、責任を持って意見したい』『基本設計の中に瑕疵（かし）があるので、空間特質の議論をしても意味がないのではないのでしょうか。専門家に確認してほしいと意見している中で、本日の会議を開催するのはおかしいと。今までも専門家との話し合いを申し入れしてきたが、受け入れてもらえなかった』という意見がありました。

そして、『この会議の目的が明確でなくわかりません。会議の議事録はどのように使用されるのでしょうか』『中央道路の廃道まで戻るような意見がありました。生の意見をリング会議に出すのですか』『制約条件がある中でまとまった設計のため、今まで以上に良い空間となると思いますが、この場の雰囲気は私的意見が相次いでいるような、賛同の意見はなかなか言いづらいです』『グループワークで意見交換をすることは有益だと思うが、空間特質の継承に至るまでの議論などのプロセスが足りません。建築士は本庁舎等整備を反対、撤回させることを目的とはしていないので、丁寧な説明のプロセスを踏んでもらえれば納得してもらえます』『佐藤総合計画ほどの実力のある事務所であれば、この状況も乗り越えて素晴らしい建物を設計できると思っているので期待しています』。

それから、『予算に収まらないからしっかりと検討するよう1年半前から言ってきました。発注者がアクティブにやってくれなかったから後でこうなりましたとか、ワークショップ3回はやらなかったかという話が出てきます。公共の建物なので、模範的な建物であるべきと。緑を屋上に造ればいだろうとしてしまっただけでは、民間も皆そういう逃げ方をします』。

あとは、『事前会議の意見はどのようにリング会議で取り扱われるのでしょうか』『基本設計の成果品にも模型はありますか』『われわれ世田谷区民は主人で区は従僕、タックスペイヤーとタックスサーバントの関係です』『地域全体を見ると今回の計画建物の大きさはとんでも

ない大きさです。そういった模型を持ってきて話をしたかったです』。

それから、設計の前提条件についてのご意見もたくさん出されました。『中央道路によって建物の制限が多くなっているのので、道路の廃道を再度検討すべきかと感じました』また、『2年以上前から真ん中の区道について廃道するべきだと申し上げてきたのに、広場のしつらえになっています、なぜですか。道路があるために各敷地の建物の条件が厳しくなっています。道路上に広場のようなしつらえは警察も了解しているのですか。道路上に広場のしつらえをして、そこで交通事故が起きたら誰の責任なのでしょう。道路管理者でしょうか。きちんと整理がなされていないまま造っていくことは問題ないですか』『道路とするなら排水溝や縁石も取らないといけないのでは』とのご意見でした。

あとは、『区道を残すことで広場で何かやる際には区に道路占用の届け出が必要になるのでしょうか。それは区民にとっては手間だ』ということでした。

また、さらにその他、設計の内容についてもたくさんありまして、『外部の話をして内部の話をしていないように見えますが、内部にも多々指摘したいところがあります』また、『執務空間が広すぎて、ヒューマンスケールではありません。条件上こうするしかなかったのかもかもしれませんが、前川さんが見たら何と言うのでしょうか』。

あとは、歴史的なことも考えてほしいということで、『昔区役所の辺りを元宿といったそうですが、そこに住まわされていた吉良氏の家臣であった今川氏が世田谷区を開拓してきました。そういった歴史上のことも踏まえてほしい』ということでした。

それから、『職員からも設計には問題があるという声を聞いている。職員の中に雨に濡れずに東西の往来ができたほうがいい』という意見があります。『以前に同様の検討がされ、雨に濡れることがないように本庁舎整備を進めるということで提案がありました。職員さえ望んでいることを図面に反映しないのはなぜでしょうか。ブリッジを付けたところで濡れるのではないですか』とのことです。

それから、『道路車線については建物を後退させるセットバックで逃げていると。構造的に合理性がありません。合理的な根拠を示すべきです。スパンを8メートルにするのと16メートルにするのは、どちらに経済的合理性があるのですか』ということでした。

続きまして、『基本設計には階段の防火区画が記載されていないので分かりません。以前からカウンター前の空間が狭いと言っていますが、防火区画があるとさらに狭くなります』『西棟はエコボイドやポツ窓しかなく、中庭側も会議室が並んでおり、執務室は採光がほとんど取れない計画になっていませんか』『西棟の階段が区画されていない階段となっているのではありませんか』『西棟2階の保健福祉部への来庁舎者数を考えると、西棟のエスカレーター2台は必要ないのではないですか。東棟のエスカレーターも同様です』。

また、『これは図面上の記載のことで東棟側のケヤキの大きさ、広場側のケヤキの大きさが違うのではないですか』『5階建てになるとケヤキの剪定（せんてい）を今よりも行わなくてはいけないのですか』これは2階建てだと3階以上はする必要がないのですが、5階になるとケヤキがぶつかってしまうので、今より剪定をたくさんしなければいけないのではな

いですかという趣旨のご指摘です。

あとは、工期や予算につきまして、『工法、工期変更に伴い金額が変わってきています。これは区として了承しているのですか』『17 億円金額が増えています。そのお金も税金なのですよ』ということです。以上がご意見等です。

質問形式のものをたくさんいただいています、こういったことについては今日お答えをしていますとなかなか時間も割いてしまうので、こちらについては責任を持って、後日ご意見やご質問に対する回答を区の考え方ということでお示ししてまいりたいと考えています。以上です。

(奥村)

ありがとうございます。それでは、佐藤総合計画の鳴海さん、大きな考え方からご説明をお願いします。

(鳴海)

次の話題に移りたいと思います。ここに前川國男の設計と書いていますが、皆さまに事前に資料をお配りしたので少し簡潔に、かなり言葉も難しいところや説明も専門的な部分もありますが、学術的な見地を踏まえて、写真を中心に話したいと思います。空間特質の継承ですので、空間特質の継承は必ずしも全てが前川建築の継承とは限りません。今の若い人もお年寄りも含めて、皆さまが慣れ親しんできたこの庁舎や区民会館を使ってきた人や慣れ親しんできたものをできるだけゼロにしないで、前からある良いところを再価値化といいますか、価値あるところはつないでいこうという考え方に基づいています。

まず前川國男さんの多様な仕事に関して、共通するところがありましたので、われわれもそれを調べてまいりました。写真は埼玉会館です。エスプラナードと難しい言葉ですが広場や遊歩道や中庭といった空間を意味しています。こういう空間は、それを巡っていく上で散策したり、木々に囲まれたり、たまり場があったり、人が流れる場所があったり、そういうところはとてもヒューマンにできているということだと思います。

次のパースもそうです。少し明るくて見にくいですか。神奈川県立音楽堂が上の写真です。京都会館は下の写真です。ロビーやホワイエや、外のエスプラナード、遊歩道や歩道が一体的に連続しています。外からずっと中にふっと入って、場合によってはずっといったん暗くして、また明るいところに入るとか、突き当たって休めるとかそういう部分があって、すごく連続しているということを言っています。

これは世田谷区役所中庭部分も白黒の写真です。できた当時の写真ですが、これもある意味広場、エスプラナードとして計画されています。この広場の中に、区民会館の前にバルコニーがありますが、これもわれわれでいうテラスという考え方をできると思います。手前に少し階段が見えていますが、前川先生もやはり 1 階と 2 階の関係をすごく大事にしています、必ずいろいろな建物を見ますと 1 階と 2 階をつなぐ大階段をすごく大事にしています。今の区庁舎にも大階段がありますが、これをすごく大事にしていることは申し上げておきた



いと思います。

これは東京文化会館ですが、これもやはり音楽はホールの中で聞くだけではなくて、幕前と幕間と幕後、その前から少し高揚感を持ってホワイエを楽しんだり、広場を楽しんだり、あるいは終わった後にレストランやカフェなどで皆で話すという場を、特に1階と2階、あるいはその中間階を各所で随所に造っていますので、これも紹介したいと思います。

この写真も同じです。内外の空間の連続性はこの庁舎に現在、壁画があるところでありますが、この考え方と通じているものがあります。

この写真も微地形と呼んでいます。自然の地形は様々、アンジュレーションがありますが、そういった考え方にのっとっています。特にここにある東京都の美術館も東京文化会館もやはり下の広場のレベル、そして上のデッキレベルと、それとを結ぶことをすごく大事にして、アプローチや広場の考え方を取っています。

この写真は、左に世田谷区役所、右が熊本市の美術館です。これもロビーやホワイエといったものとその上に上がっていく階段と、すごく1~2階というものを大切に空間の流れをつくっています。

このスライドに関しては、外壁の仕上げ、前川先生は非常に当時すごく工業化や建築生産に対するモジュールだとかそういうものをすごく大切にしてきましたので、随所にすごくヒューマンなタイル貼り、そのタイルも赤褐色のととも緑や自然になじむかたちで造ってきたことをご紹介します。

床仕上げもそうです。タイル貼りでしたらタイルの貼り方だったり、単に機械的に割るだけではなく、とてもヒューマンなレベルで変化を持たせます。次に緑も出てくると思うのですが、この床のタイル貼り、そして緑の扱い、ベンチの扱いということでもとても人の視線ですごくコミュニケーションができるような、そんなしつらえを取っています。彫りの深い影もあり光もある、よどむ、流れる、たたずむといったものをきめ細かく考えて設計に反映させて、今現在もたくさん残っている施設がありますので、そういったことはすごく大事にして考えていきたいと思っています。

当然先ほど言いましたが、一般的な庁舎は大体が数千平米から1万平米、多くてもそれを少し超えるぐらいの規模ですが、今回の庁舎は全体で7万平米もありますので、7万平米の中でそんなに簡単にヒューマンスケールなどという言葉は僕は簡単には使いたくないですが、少なくともこの1階の地盤周り、2階周りにはこういう考え(ヒューマンスケールな考え方)を少しでも反映させたいと思っており、次の設計の反映というところで説明したいと思います。

何となく囲まれている広場とそれを巡る、目的はなくてもすごく楽しくて豊かな気持ちになって巡る空間を造りたいということ、私たちはこの大きな建築であっても(右側の図にありますように、)できないかと考えております。右からいきますと東側のケヤキが今のまま残って、ピロティに入ってきて広場があつて、また新しく西側にもピロティを造って下に下がって西側に抜けていきます。そこでもまた1~2階というものを大切にしていって、1階でも

リングのひさしの下で巡りますし、2階でもリングを巡っていきます。そういう1~2階を大切にするのは、前川先生のご思想の継承でもあると考えています。

前川建築の継承という点で、20日の専門家委員会でご指摘がありましたこととお話します。単なる敷地の中だけの継承ではなくて、当然前川先生は敷地を超えた都市、町全体にそういうことが波及していく考えをしているのに、そういった説明がなかったという非常に良いご指摘を受けました。われわれとしては全棟を検討してきたのですが、急遽、この断面を本日お見せするために描きました。この断面は東側のピロティから西側の少しレベルが下がっているところまで断面図を切ったものです。街のそういったレベルと確かに2階建てではありません。3階建てではありませんが、5階建ての建物があって、その中で1~2階を有効にリングテラスを含めて緑も一緒になって、一体的になっていることをこの断面図では表現しています。それを見て感じていただければと思います。

これはちょっと押さえになります。これは既存の絵です。今あるピロティや広場を中心としたいろいろな空間がやはり連続しているホワイトエ、ピロティ、今の区役所の1階です。ここは、新しく区民利用になりますが、そういったものの考え方をできるだけ規模が大きくなっても、何とか大切にしていこうと考えました。その具体的などころに今度は移っていきます。

(鳴海)

あとは、ちょっと具体的なデザインを継承している部分の話に移っていきませんが、外構の仕上げも当然前川先生は赤褐色とグレーのタイルに表現が使われていますので、われわれの広場もそういったものを大切にしていきたいと思っています。

これは竣工当時の広場の床のパターンです。区民会館のこの折板の壁にモジュールを合わせて8メートル角ぐらいの大きなものの中に、また2メートル、1メートルといった床のパターンを内包し、いろいろなスケールを感じるようによく考えられています。こういった考え方を私たちも今回のスパン割り等に合わせて、使っていきたいと思っています。具体的には今絵で示しているとおりなのですが、素材は自然環境、地球環境のほうの事例です。省エネ、CO<sub>2</sub>削減、地球環境保全、グリーンインフラとしては降った雨をどう処理するか、保水・透水性舗装という新しい材料で実現していきたいと思っています。

今ある左側はレンガの床ですが、これを砕いて黒い部分の床あるいは赤褐色の部分の床をその素材に混入して、専門的な用語でいわゆるテラゾーブロックのような感じですか。こういったもので既存の材料の価値をそのまま今回にも残したいと思っています。

また、後でお話するメモリアルギャラリー、今は仮称ですが前川メモリアルギャラリーという部分を造りますので、一部その床にそのまま使って、「この今あるタイルはこのように使ったのです」という表示をして、記憶として継承したいと思っています。ケヤキ並木部分は現在の風景の継承、そのままパターンを保水性ブロックで再生したいと思っています。

この新しくできる交流スペースや区民会館のロビーは、基本的にはソノイシイという材料を使いますが広場やピロティとパターンを同じくして、内外の連続性を図りたいと思っています。

また、先ほど言いましたとおり、内外の連続性も外から扉の中に入っても、そのパターンを同じように感じられるようにしていきたいと思います。

また、この区民会館のロビーは広場側には上層部へ行くコアがあり、外の広場に対するつながりも少し薄れましたが、この空間はピロティに対して、また新しく東側のケヤキ並木に対してはすごく一体的に感じられ、見えるようになりますので、こういう部分は新しい考え方でより良いものにしていきたいと思います。もちろんこの階段部分は復元しますし、今はレストランケヤキのあるサンクンガーデンは修景しながらも基本的にこのまま残していきたいと思います。

基本設計には描いていなかったのですが、区民会館エントランスの2階レベルに、ロビーのホワイエの延長となるように、ラウンジやカフェスペースを配置し、前川さんの設計でいうと東京文化会館や弘前市文化会館のように、中間階である2階のところからホワイエを感じられるカフェを配置する考えを、ここでも実施していきたいと考えております。

そして、大沢先生の壁画、レリーフについてです。これも基本的にはそのまま残す、保存・再生するという方向です。原画を元に、今のままの状態にできるだけ近い形で区民会館のロビーに持っていきたいと思います。レリーフの後ろ側には前川メモリアルギャラリーとして、この区庁舎や区民会館のかつての記憶や、あるいは同時代の建築なども含めて、ギャラリーをつくりたいと思っています。

天井も今はコンクリートの格子天井になっています。ただ、今回はRC造ではなくて、免震構造やいろいろな関係があって鉄骨造が中心ですので、同じような形状、鉄素材でそういった格子天井を設けたいと思います。ぺらっとした吸音材の天井材をふっと貼るだけではなく、しっかり空間の形状と非常に彫りの深い、深みのある天井素材も使っていきたいと思います。

ホールの中については、特に壁部分について着目してお話しします。壁部分は今はペンキ等が塗られてしまっています。ですから、そういうことではなく、そのまま当時の壁の二重壁として手前側に同じものを再現したいと思います。当然ただ再現するのではなく、音響性能も良くしなければいけませんので、当時の再現をしつつその音響上のシミュレーション等も行います。やはり残すというからには保存・再生そのままの壁を残したいと思います。

舞台回りも大臣柱としてどうしても取れない2つのプロセニウムの両端はどうしてもあまり大きく変えられませんが、高さは高くできますので音楽などのいろいろな演目には今以上に性能をアップして、舞台のプロセニウムの高さも高くして、より使いやすく音楽あるいは演劇に対しても今以上にいいホールを目指して設計を進めています。

次にこれは先ほども言っていますが、微地形の形成という前川先生の考え方です。階段・半地下・人工地盤などいろいろな要素がありますので、そういった要素を今回も、1~2階の部分で大事にしていきたいと思います。先ほどお話ししたスロープもその微地形というか、レベルを少し変えて変化を持たせることを考えています。

外装については、一番記憶に残るとてもすてきな、この広場の外装でもある区民会館のV

の字の折板壁です。これは単なるぺらっとしたフラットの壁ではなく、ずっと皆さまに親しまれてきたものであり、その折板、凹凸のある考えを今回の設計では随所に継承していきたいと思います。右側にあるこの建築の上層部のところも、金属パネルとガラスで折板の壁として凹凸を付けていきたいと思っています。

また、全体の立面図についてですが、基本的に前にお話ししましたオレンジ部分の低層部、ブルー部分の中層部、紫の上層部の3つの構成となっております。紫の部分はほんの1カ所ですが、全体にはこの下の部分です。三層構成とした区民利用がとて多い①1~2階部分、そしてそれに付随した上の2~3階部分、②4階~5階部分、③上層部という考え方を反映させていきたいと思っています。

先ほどお話ししましたが、このコンクリートの仕上げはペラペラの金属とは違って、とてもやはり風合いが出るといいますか、それなりに趣が出るので、こういったコンクリート素材を中心に非常に光と影といえますか、深みのあるデザインを全体にしていきたいと思っています。

先ほど見た上層部です。上層部も折板のモチーフで今のところ上層部ですので清掃という観点も大事ですし、環境配慮ということもあり、アルミパネルとガラスで構成しています。この4~5階の部分はやはりルーバーを用いたいと思います。コンクリート素材のルーバーとして開口部に光も与えながら、場合によっては西日や東日を遮ります。また、プライバシーに配慮するところはかなり開口部を制御していく考えで進めたいと思っています。

このような中で現在の風景にどのようになじんでいくかシミュレーションをしています。左側は現況です。右のアンジュレーションは、そのままの位置で、タクシーは消していますが、あとの部分の電柱や道路の関係は全く同じスケールできちんと合わせて、新しくなったらどう見えるかを行っています。次は北東の角です。このような状況になります。これは南東側でして、今あるケヤキの状態をもちろんこれは変えないで、上層部はやはりどうしても一部分は見えてくるということになります。

この道路側から中庭を見た視点も、中庭がどう変化するかを見ていただければと思います。西側の新たなアプローチの部分は今あるものそのままを新しくできたらどうなるかということで多少この建物をセットバックして、地盤になじむようなことを考えながら行っていることがわかると思います。

少し専門的になりますが、今は環境の時代です。この外壁の性能について、業務する執務室の中の環境も大事ですが、省エネに関して、外壁性能を断熱や光の制御をしっかり取っているかなどの視点で環境性能のランクが国で決められています。我々の提案は、CASBEEという最高ランクを目指していきたいと思っています。もちろんゼロエネルギー化を目指していくことや今後いろいろな防災に関しても、環境に関してもどんどん社会は変わっていますし、そういった環境性能のランクもレベルが高くなっていますので、柔軟に反映していきながら、建物の性能をよりアップしていきたいと思っています。

最後になりますが、これは南側から見たパースです。ちょっと縦横比が少し変わっている

ので建物が高く見えます。模型でも見ていただいたとおりですので、模型を介してご意見を伺いたいと思います。当然前川先生の時代の話もしていきましたが、この建物は数年後また先にできるわけです。当時、車社会も環境についても、防災についても、人生がまさか 100 年時代になることも予想しなかった時代における建築です。

これからできる建築というものは、当然既存の価値をすごく尊重し、できるところは既存の価値を反映します。そして、新しい施設ですので、新しい価値というものを見据えて、どんどん新しい庁舎としての考え方を盛り込んで、設計をしていきたいと思っています。説明は以上です。

(奥村)

ありがとうございました。それでは、皆さま、いろいろと説明も多岐にわたりにまして、長い時間お聞きになってくださいます、大変ありがとうございます。これから皆さまからのご意見をお伺いしたいと思いますが、その前にどうしてもこれだけは聞いておかないと、皆で共有しておかないといけないという質問がもしおありでしたら、お一方、お二方お受けいたしますが。

(委員 C)

ホールの平面図を頂いているのですが、これはいつ頂いたのでしょうか。

(鳴海)

基本設計終了時です。

(委員 C)

ほとんど決定の。

(鳴海)

この設計の時の。

(持田)

基本設計時ですから、そこからまた改善しています。

(委員 C)

その改善しているものは頂いていません。頂きましたか。

(鳴海)

それは休み時間に調べてもらいます。

(委員 C)

はい。

(奥村)

それでは、皆さまお疲れのことと思いますが、模型などもご覧になっていただく時間を少し設けたいと思います。10分休憩時間を取らせていただきます。その後は各テーブルで皆さまからのご意見を賜りたいと思います。私の時計で恐縮ですが、今ちょうど 30 分ですので 40 分、10 分後にスタートしますので席にお戻りください。お願いします。

## <休憩>

(奥村)

ありがとうございます。これからの進め方は各テーブルにファシリテーターが付いていますので、そこのファシリテーターの案内で進めていただければと思います。グループの話し合い、意見交換におきましては傍聴の方々にも後ろからその席ではなくて、各グループの近くまでお寄りいただくことはやぶさかではありません。ただ、以前委員の方たちが「A という意見を言おうと思うのに、後ろで B だ、B だとつぶやくのです。だから、話にくくて仕方なくて」というご意見をいただいたことがありました。ですので、傍聴の方々はくれぐれもお話を控えていただきながら、見守っていただくようお願いをしたいと思います。

それでは、時間としますとこれから 50 分程度各グループでの意見交換を進めていただければと思います。テーマにつきましては、リングテラス、それから階段スロープについての報告から始まりまして、その後合計 A、B、C、D、E、5 つの話について、皆さまにご議論いただければと思います。

さらに時間に余裕がもし確保できるようでしたら、各グループの中でこれまで言いたかったが言えないこともあったということがありましたら、自由にお受けいただければと思います。限られた時間ですが、皆さまのご協力をお願いしたいと思います。それでは、テーブルごとの意見交換を始めてください。

## <グループディスカッション>

(奥村)

皆さま、熱心なご議論ありがとうございました。それでは、各グループでどんなことが意見として出されたのかをご報告いただきます。恐らく A という意見もあれば、B という意見もあります。いろいろな意見が出てきたかと思しますので、そこをかいつまんでお話いただければと思います。全部の付箋を本当は紹介したいぐらいなのですが、待ってください。もうそろそろ皆さまにお約束した 4 時まであと 20 分になろうとしていますので、かいつまんでお話をいただければと思います。A グループからいきましょうか。

(宮地)

それでは、A 班から発表したいと思います。まず、リングテラスについて必要ないのではないかという意見もあったのですが、割と大半の多くの方がこのテラスはひさしとしても必要ですし、回路っぽく回れて歩いたりするのもいい環境なのではないかという意見が出ました。

それから、大階段についても要らないという方もいらっしゃったのですが、集まったときに椅子代わりになったりして使えるのではないかという話も出ています。

それから、一致した意見として、スロープはないほうが良かったかなという話が出ていま

した。このリングテラスや大階段については、日常使いとイベント使いと災害のときの使い方をきちんとイメージしていけば、ここが役に立つことが分かるのではないかという意見が出ました。

続いて、2階の同じリングテラスなのですが、リングテラスを広場として今日ご説明があったのですが、広場といわれるとこのリングテラスを広場として使うのはイメージできないなというご意見がありました。やはりこのリングテラスはあくまで通路機能なのではないかと、通路であるならば今広いところがありますが、それを狭くして大階段を寄せて、本当の1階の広場を広くすることも考えられるのではないかという意見もありましたが、一方でこのリングテラスにベンチがたくさんあったらやはり座ると、いい雰囲気になるのではないかという意見も出ていました。

それから続いて、広場の床のデザインです。今日は柄のデザインが提案されましたが、今あるようなモノトーンのほうが落ち着いていていいのではないのでしょうか。前川建築は柄を使っているときもあったようですが、今日出していただいたいろいろな参考の写真をみると、今の広場と似たようなデザインのところも多いので、そういうモノトーンのようなもののほうが落ち着いていていいのではないかという話もありましたが、舗装パターン等についてはとりあえずこだわりはないのでいように造ってくださいというような話もありました。

それから、区役所や区民会館の外装については、色はどんな色ですかというので資料を見ながらグレーというのを確認しました。区民会館は現状きれいにしますよというお話がありました。

それから、区民会館に懸垂幕というイベントなどのときの縦の横断幕のようなものを張ることが多いと思うのですが、その釘のようなものをきちんと設計しておかないと後付けになるとすごく汚いので、それはやってほしいという話がありました。

前川建築のエッセンスを継承してほしいという話がありまして、今日の案を見るとやはり1階、2階が前川建築を継承していく部分になるでしょう。3階以上はちょっと考えにくいよねと。この1階、2階は前川建築のエッセンスをぜひ取り入れる工夫を、これからもどんどんしてほしいと。例えば手すりが木の手すりですぐ握りやすいとか、そんなデザイン的な特徴がありますよねという話がありました。設計会社さんでもホール内部のデザインに前川建築を取り入れて工夫しようとしていたり、あるいは色の使い方の特徴があるのでそういうものもこれから研究して取り入れていきたいという話がありました。

あとは、LGBTの方のトイレの使いやすさなども取り入れてほしいとか、奥まっけて怖くて使いにくい場所を造らないでほしいとか、広場でイベントをやったときも使いやすいトイレを造ってほしいとか、トイレに関しても意見が少し出ました。

それから、建築専門家の方に意見をお伺いしたのですが、それをこの設計案に取り入れる工夫をしてほしいというのもありました。あとは、適正なコストで早く実現してほしい、10年後職員が減ってしまったときにも転用できるような建物にしてほしいという意見が出ました。以上です。(拍手)

(奥村)

ありがとうございます。それでは、B班テーブル、お願いします。

(坂本)

それでは、B班の発表を進行役の坂本よりしたいと思います。まず、リングや広場、階段についてのご意見です。まず、リングの今回の階段のプランはいいというご意見がありました。それについては結局スロープがなくなっても非常時の移動や普段の移動でエレベーターが使えるのであればそれでいいのではないかと、十分役割としては果たせているのではないかとというご意見がある一方で、やはり災害時にエレベーターということだけではなくて、スロープも別の場所にでも確保するという案も可能ではないかと。今回西側のエレベーターはむしろ減ってしまって、階段とスロープを併設させることを考えると、アクセスの仕方の方針に必ずしも一貫性がないのではないかといったご意見もありました。

また、エレベーターが本当に実際災害時にスムーズに使えるのかという、運用の辺りでも不安があるといったご意見をいただきました。実際はそういった誘導計画等もしっかり練られて運用することにはなっているというご説明はいただいたのですが、そういうものがないとやはり皆さま不安にはなるというお話でした。

また、階段のしつらえとして今回脱輪防止策が出ていましたが、その柵がむしろつまずいて転倒する恐れがないかといったご意見、そのためにも高さなどを考えてほしいよということです。

それから、ステージ周りのベンチはあると良さそうですねというご意見があった一方で、本当に大階段は要るのでしょうかというご意見をいただきました。むしろ、ステージがいろいろ使えるのであれば、ステージのみだったり、階段の部分を緑のエリアにしてもいいのではないのでしょうか。今回はその大階段を目玉と言っているけれども、結局はUDの姿勢が見られないことを考えると、本当に要るのかというご意見でした。

その他に空間の継承についてはうちの班ではあまりたくさんは出なかったのですが、広場の床の仕上げについては、今回のその解放感やくつろぎを考えると今の空間の継承として出されているようなタイルのデザインでなくても、もう少し工夫ができるのではないのでしょうか。壁面だけでも十分前川建築の継承はできているのではないかとご意見をいただきました。

その他、ホールの出入り口についてはちょっといろいろ危険だったり、光が差し込むなどの懸念があるので改善してはどうかというご意見や、6回のリング会議を通して区議会の議場やその周りの検討がこれまで出てこなかったのも、そういったことも検討すべきだったのではないかとご意見がありました。

それから、今回の6回のリング会議は設計のしつらえだったり、中身についての話でしたが、今後世田谷区民で良かったと思えるような区民利用や開放をしてほしいですか、区民が行きやすい窓口配置や案内、それから開かれた場であってほしいといった期待の声をいただきました。



また、区民交流スペースの検討はワークショップや別のところでされていますが、どんな使い方ができるかという辺りは気になりますというご意見がありました。

それから、6回を通して素晴らしいものができることを期待をしています。また、期待をしていますUDの考えをベースにして、今後決めていってほしいというご意見をいただきました。以上でB班の発表ですが、補足は大丈夫ですか。以上です。ありがとうございました。

(拍手)

(奥村)

ありがとうございます。C班の発表をします。リングテラス、階段、スロープについてこれだけの半分ぐらいの面積が先取ありますが、いろいろな意見をいただきました。まず、リングテラスはやはり必要ない感じがします。鳴海さんのご意見も造りたいがための言い訳にも聞こえてくるときもあって、要るのかなと悩まれています。

それから、リングテラスは最初は造らなくてもいいから、後付けでも必要になったらできるような、そういう方法はないのでしょうかなどという話もいただいています。

具体的には柱が多すぎて邪魔になってしまうと、それから訪問者は実は行き先が決まっています、いろいろな部署を渡り歩く訪問者は意外と少ないのではないのでしょうか。それをあえて動線で結び合わせるようなことは、どの程度有効なのでしょうかなどということも出てまいりました。

それから、仮にリングテラスを造るならば、階段はなくてもいいのではないのでしょうか。少しでも広場を広く取れるようにしたらいいのではないのでしょうかとか、あるいは階段は小さくていいのではないのでしょうかという意見もありましたが、今造ってみてどのように使われるかがまだ見えていない状態なので、ひょっとしたら将来はだいぶ変わるかもしれませんよ、そんなご意見もいただきました。しかも、階段も後付けでもいいのではないのでしょうかというご意見もいただいています。

リングテラスにエレベーターを設置するのはどうでしょうか、あるいは働く人のためにはエレベーター等ではなく、むしろ階段で行ったりするほうが便利なケースもあるので、やはり階段はあったほうがいいのではないかという意見をたくさんいただいています。

そうはいつでも、大事なのはリングの持っているポリシー、理念だというお話をいただいています。世田谷区内の支所をつなぐ、あるいはその縦割りといわれているいろいろな部署をつなぐ、そういう象徴としてのリングと考えると、やはりこれはとても重要な世田谷区政をそのまま表すような大きなコンセプトなのではないのでしょうかというご意見も伺っています。

それから、技術的なところからはこういうビルを建てるのだとすると、10階建てぐらいにして本当にエレベーターを充実させてやったほうが機能的にはとても便利だし、広場もたくさん取れるわけなのですが、そうではない、そういうことができない住宅地の中の建物であるという、そういう厳しい条件の中で2層分は本当に自由に行き来ができるという、これはやはり画期的なコンセプトだと思います。これは最初の設計の提案よりも、だんだん回を追

うにしたがって内容がブラッシュアップされてきた感じはしますというご意見もいただいています。横つながりのオフィスの配置はとても良いというご意見もいただいています。

それから、ステージについては広場がそれほど大きくないので、ステージが本当に要るのかな、などというご意見もいただいています。もし、造るとすればビールケースで十分なのではないですか。自分の好きなときに好きな規模で造ることができますからというご意見もいただいています。

もう一つ、デッキの利用イメージがあまり豊かに湧いてこないのはどうしてなのかとも思っています。もう一つ、デッキの利用イメージがあまり豊かに湧いてこないのはどうしてなのかとも思っています。

それから、リングは実はイベント時に結構役立つのではないのかなという使い方のイメージについて、例えば観覧席として使ったり、あるいはひさしが広いことで、例えば観覧席として使ったり、あるいはひさしが広いことで下は雨や日を避けるような場所として使ったり、意外と役に立つのではないのでしょうかというご意見もいただいています。

それから、どうせ造るならばテーブルや椅子などをきちんと置いて、カフェテラスで朝食が取れるような、そのぐらいのリングの幅があってもいいのではないのでしょうか。そこに通路幅として必要な幅を足すぐらいの、やはり豊かな空間を造るのだったらリングとして生きてくるのではないのでしょうかというご意見もいただいています。

1つ質問がありますということで、建物とリングは構造の形式が違う、耐震の形式が違うということなので、ぶつかりあって壊れてしまったりすることはないのですかなどということもいただいています。このぐらいたくさんリングテラスについてご意見をいただきました。

次は空間特質の継承については、まず出てきたのがなぜ今日説明があったのかというお話をいただきました。もっと前にこれは説明があってもいいのではないのでしょうかというご意見もいただいています。残すことと新しい建物の折り合いがまだ十分についていないような感じもします。一方で、前川先生の設計のときにいろいろ考察されたことはとても参考になります。設計全体はとても良いと思います。哲学を非常に感じます。

それから、これは前川イズムの継承というのは、世田谷の意思となるのでしょうか。この建物を継承していくことが、区としてのやはり1つのポリシーとして位置付けられることが重要なのかなというご意見もいただいています。

その他に空間特質の継承というのはディテールではなく、空間全体のことなのだという話をいただきました。その観点から考えると、音楽ホールのホワイエからの景色がやはり良いというのが、今の空間特質の継承として特筆すべきことなのではないのでしょうかということが言われています。

そうは言っても、この条件下でよく課題を解いていて、全体としてはかなりブラッシュアップしてきているような感じがしますとのご意見をいただいています。

その他、AからEまでいくつかコメントをいただいていますので、簡単にご案内を差し上げます。広場の構成と設計の背景につきましては大階段の三角になっている西側のラインがどうもなぜ広がっているのかがちょっと釈然としなかったのですが、その西側に三角の緑地

を付けたことで放射状のイメージが非常に湧いてきたので、これはひとつ形としての完成形なのではないかというご意見をいただいています。

それから、次に内外の空間の連続性としては、床仕上げの連続性は言葉としては分かるが、実はこれは大変です。ですから、どう決めていくのかは興味があります。

それから、微地形については特にコメントをいただいません。外装についてはいくつかコメントをいただいています。ここは垂直デザインが特徴だといわれているのですが、水平思考の建物に合っていないような感じもしますというご意見もいただきました。

それから、折板のサイズが区民センターは大きい打ちっぱなしの折板になっているのですが、それを横でスパッと切っている辺りのあのシャープさ加減は、ワンセットで使ったほうがいいのではないのでしょうか。あるいは、それがミニチュア化されて他の場所に使われていることが、今一つ何かしっくりこないというご意見もいただいています。

それから、折板のデザインは最近では環境のことがとても大事だといわれているので、日照対策としてはとても重要な一般的な方法であるというお話もいただきました。歴史的要素を含めた吉良邸のモチーフなども何か入れることができればいいなといただいています。

最後に床の外構の仕上げにつきましては、なぜ前川と同じパターンにしないのというご意見もいただいています。元々の床のデザインに戻すことはとてもいいことだと思われていますが、そのときに凸凹だと車椅子では動きにくいとか雨のときにスリップしやすいとか、そんなご意見もいただいています。タイルの再利用は非常に素晴らしいので、それも活用していただきたいと、いろいろなご意見をいただきましてありがとうございます。これでCグループの発表を終わります。どうもありがとうございました。(拍手)

以上で皆さまからいただきましたたくさんのご意見を佐藤総合計画の皆さまにまた熟読していただいて、参考にしていただけると大変うれしいなと思います。これで意見交換のパートを一区切りさせていただきたいと思います。皆さま、長時間どうもありがとうございました。

(乾谷)

ありがとうございます。本日も限られた時間の中で皆さまから熱意のあるご意見をいただきまして、ありがとうございます。本日の会議も前回同様議事録を作成しまして、皆さまに配信させていただきます。また、お配りしたアンケート用紙ですが、委員の方はそのまま机の上に、傍聴の方は受付にて回収させていただきます。よろしくお願いします。

それでは、閉会の言葉にて本日の会を締めくくらせていただきます。

(鳴海)

皆さま、どうもありがとうございました。皆さまの本当にその関心の深さ、そして建築に対する期待、あるいは叱咤激励、ご批判も含めて私どもは本当にこれを心にとどめ、頭の中に入れて設計等、これから前向きに進む、その辺を考えていきたいと思えます。ちょっと感じたことは設計というのは物の考え方、あるいは見方そのものです。ちょっと違うところから見ると全く違うものもできますし、100人の設計者がいれば100通りの建築もできます。

また、100人のご意見があれば、皆さま個性が違いますので100通りの意見があります。今日もこちらの意見、一方ではこちらの意見ということがあります。まさにこの時代は本当に多様性の時代です。

ただ、設計はその多様性を多様性のままで表現はできません。そのいただいた意見の中から私どもと発注者一緒になって、そのどこに根拠があるか、どこに価値を見出すか、これからできる建築はどうしていったら一番良いかをこれから議論を尽くして、また主体的に皆さまの前で実施設計の報告をしていきたいと思えます。この流れでいけばプロポーザルの趣旨が非常にブラッシュアップされて、皆さまの意見もいただきながらいい方向で、世界に出しても恥ずかしくないようなものができると思えますし、そういったものを目指してそういう気持ちで今後取り組んでいきたいと思えます。

(佐藤)

では、リング会議はこれで閉会となりますが、区から連絡事項というかたちでいくつかお話ししたいと思います。まず、リング会議は本日が最終回、最後となります。

(委員 C)

すみません、質問を1つさせていただきます。

(佐藤)

ちょっと連絡事項ということでよろしくお願ひします。6回にわたり、委員の皆さまにお集まりいただきまして、それぞれの立場で貴重なご意見をたくさんいただきました。ありがとうございます。いただいたご意見につきましては、今鳴海さんからもお話がありましたが、佐藤総合計画の進める設計作業の参考とさせていただいて出来上がった後、皆さまに愛着を持って接していただける区役所を造っていくための参考とさせていただきます。

これからも実施設計の作業を続けるわけですが、まず10月5日には10時からこちらのブライトホールなのですが、各種条例に基づく説明会を開催します。実施設計は今年度末には案として取りまとめることとなります。2月ごろをめどにしていますが、また実施設計の案ができましたら委員の皆さまに送付し、ご確認いただけるよう準備を進めてまいります。長い期間でしたが、委員の皆さまには大変お世話になりました。区を代表しまして感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

(委員 C)

では、いいですか。区民ホールで私が気になっているのは、今1階は前川のロビーとホワイエがありますよね。ですが、新しいのですとそのロビーとホワイエがなくなってしまうので、火事や地震のときに逃げるのは横に小さなドアしかないのですが、これは逃げるのはどうなのかなと思いました。それで、2階で音楽ホールを出たときに、今度はこの大きな階段を降りて逃げますよね。もう一つ多目的トイレのところかしら、小さなエレベーターか何かがありますよね。この逃げ方は京アニの例もありますから、火事の場合パニックにならないかなと思って非常に心配なのです。

(鳴海)

後ほどお答えしたいと思います。防災避難計画、避難幅は条例に基づいてしっかり考えていますので、またご報告したいと思います。

(乾谷)

それでは、終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。(拍手)